

01 新レジスト樹脂工場と新研究棟を建設開始

生成AI普及を背景とした半導体需要拡大に伴い、半導体レジスト用樹脂の生産能力増強に向けて新工場および新研究棟を建設することを決定しました。新施設はいずれも加古川製造所内に設け、既存工場ですべて培ってきた研究開発から製造までの一体運営を、規模・機能の両面で強化します。

新工場「レジスト樹脂工場」の建設により、半導体レジスト用樹脂の製造能力は稼働初年度に現在の約2倍となります。将来的には設備増設により更なる拡張が可能な設計にしています。

併設する新研究棟は、中央研究所の3号館として位置づけ、品質管理要求が一層高まる材料分野に対応した研究環境を整えます。従来から行ってきた研究と製造の連携をさらに深化させ、研究テーマの検討から材料設計、評価、量産立ち上げまでをより高い精度とスピードで進めることを可能とします。

新工場および新研究棟にはいずれもクリーンルームを設け、より厳格な管理基準が求められる用途にも対応します。これらの投資を通じて、高付加価値かつ安定供給が求められる分野への対応力を高め、半導体材料事業の中長期的な成長基盤を強化してまいります。



新工場



新研究棟

新工場「レジスト樹脂工場」と新研究棟「中央研究所3号館」イメージ

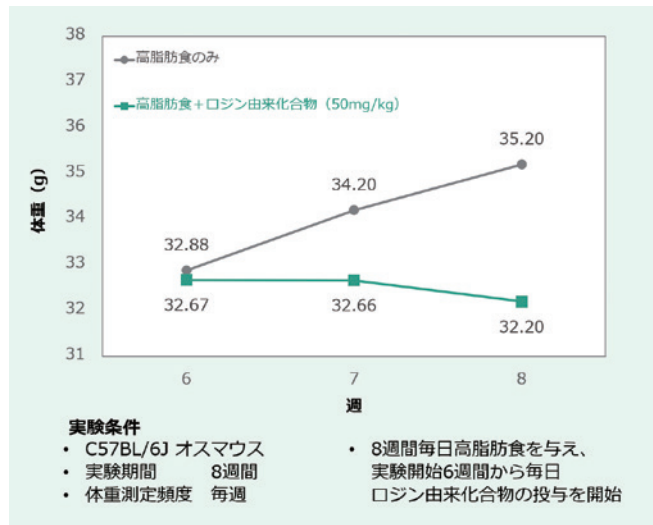
新工場・新研究棟の概要

建設場所	兵庫県加古川市野口町水足671-4 (ハリマ化成 加古川製造所内)
延床面積／構造	工場:約750平方メートル／鉄骨造2階建て 研究棟:約1,400平方メートル／鉄筋コンクリート造3階建て
主な施設	工場:反応釜、クリーンルーム、分析室 他 研究棟:実験室、クリーンルーム、会議室 他
スケジュール	着工:2026年6月 竣工:2027年6月 試験製造開始:2027年7月 稼働開始:2028年6月

02

ロジンで肥満解消～マウスで体重減少を確認～

金城学院大学および北里大学との共同研究により、松由来の「ロジン」から得られる化合物に抗肥満作用が示唆されることを確認しました。高脂肪食を用いた動物モデルにおいて体重減少作用が認められており、生活習慣病対策への応用が期待されています。現在は共同で特許出願を行うとともに、医薬品やサプリメント、機能性食品分野での実用化を視野に、さらなるエビデンス構築を進めています。



03

バイオプロセスで「リコピン」を開発

RITE(地球環境産業技術研究機構)との共同研究により、抗酸化作用を有するカロテノイド「リコピン」のバイオプロセスによる量産化実証に成功しました。商用スケールでの培養実証を完了し、高純度リコピン(粉末品)および高機能リコピン(オイル溶解品)のサンプル提供を開始しており、2030年度の売上高20億円を目指します。

カロテノイドは、ニンジンやトマトなどに含まれる黄色や赤色の天然色素で、リコピンはカロテノイドの一種です。抗酸化作用が高く、細胞の酸化ダメージを防ぐことから、美肌・肥満予防・血流改善への作用があります。近年、世界的な健康志向を背景に、医薬品やサプリメント、化粧品、食品分野での需要が拡大しており、用途の多様化や高機能化への期待が高まっています。市場では天然物由来のカロテノイドの需要が高いものの、野菜など植物抽出による供給量は限られており、代替となる生産手法が求められていました。

この課題に対し、当社はRITEと共同で、リコピンをスマートセル(狙った製品を高効率に生産するよう設計した細胞)を用いたバイオプロセスを通じて、大量生産する方法を確立しました。本技術は、トマト由来のリコピンと異なり、食料との競合を回避し、CO₂排出量削減にも寄与する持続可能な生産手法であり、医薬品・化粧品・食品分野での幅広い展開を見込んでいます。

リコピン以外にも、高い抗酸化作用・抗糖化作用・紫外線カット作用を持つカロテノイドの開発を進めています。



04

マテリアルズ・インフォマティクス(MI)の推進を加速

材料開発の効率と確実性を高めるため、実験データを活用した研究手法(マテリアルズ・インフォマティクス:MI)を研究開発に取り入れています。2023年にMI推進体制を立ち上げ、材料の性質や挙動を整理しながら実験データを分析・活用することで、より少ない検討で最適な条件にたどり着く開発手法の定着を進めてきました。

従来の材料開発では、多くの条件を一つずつ試す必要があり、時間やコストがかかることが課題でした。そこで、日常の研究業務で得られる実験データを整理・可視化し、性能や品質に影響する要因を洗い出したうえで、次に検討すべき条件を絞り込む取り組みを行っています。実際に、従来手法では数十ケースの試行錯誤を要していた研究テーマにおいて、検討量を大幅に削減できた事例も生まれています。

また、実験条件や結果をデータとして共有・整理することで、材料設計の再現性が高まり、品質のばらつきを抑えた開発が可能となっています。これらの取り組みは、量産段階での安定操業や歩留まり改善を通じて、製品の安定供給やコスト低減にもつながっています。

研究現場では、データ入力や結果整理などの作業の一部を自動化し、研究者が検討や判断といった本来の業務に時間を充てられる環境づくりを進めています。今後もMIを活用した開発力の底上げを進め、事業成果につなげます。

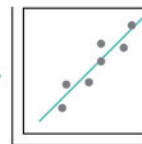
実験データ蓄積

データ構造化

モデル化



id	材料A	材料B	材料C	...
1	0.22	0.05	0.1	0.01
2	0.22	0.04	0.1	0.01
3	0.45	0.05	0.1	0.02
4	0.45	0.04	0.1	0.01
5	0.89	0.05	0.1	0.02
...	0.89	0.04	0.1	0.02



05

マリーゴールド園を通じた地域社会との共生

加古川製造所北側に広がるマリーゴールド園は、地域に開かれた憩いの場として親しまれています。

6月から12月にかけて一面を彩るマリーゴールドに加え、冬から春先にはすいせんが咲き進み、季節ごとに異なる風景を楽しめる花園として整備を続けてきました。

2025年10月に開催された「水足ハロウィン」には約1,200名が来場し、仮装イベントやスタンプラリーなどを通じて、地域の皆さまとの交流が一層深まりました。従業員が企画・運営に参画し、楽しみながら地域活動に関わる点も本取り組みの特長です。マリーゴールド園は、ものづくりの現場である工場に自然と人が集まる場をつくり、地域と企業が共に歩む象徴的な取り組みとして、今後も継続して発展させていきます。



(公財)松籟科学技術振興財団、 2025年度 助成研究者を発表

当社が支援する松籟科学技術振興財団(理事長:長谷川吉弘、ハリマ化成グループ株式会社代表取締役社長)は、2026年3月に執り行われた研究助成金贈呈式において、2025年度の助成研究者を発表しました。当財団は1983年設立以来、科学技術に関する調査・研究に対する助成・奨励を行うことで、科学技術の振興と世界文化の発展に寄与してきました。2023年に創立40周年を迎えたことを機に、研究助成1件当たり、従来の100万円から200万円に増額し、充実した支援を目指しています。今回の贈呈により、助成件数の総数は844件、助成額は累計約9億4,790万円となりました。今後も助成、奨励事業を通じて科学技術の振興に貢献していきます。



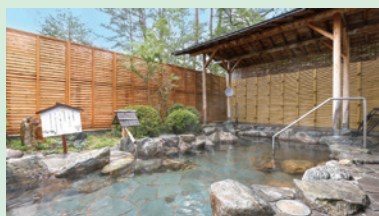
長谷川理事長と受領者代表
東京大学 榎本有希子准教授
(現 京都大学准教授)

「作州武蔵カントリー倶楽部」開場50周年

ハリマ化成が運営する「作州武蔵カントリー倶楽部」は、2025年10月に開場50周年を迎えました。1975年の開業以降、増設を重ねて現在は3コース27ホールを有し、併設するホテル作州武蔵とともに岡山県美作市の自然を生かしたリゾートとして発展してきました。

16年間の運営委託を経て、2022年に運営を当社が引き継ぎ、新体制のもと施設改修や運営品質の向上に取り組んでいます。近年は競技開催や評価の向上を通じて集客力を高め、安定的な運営を継続しています。

「作州武蔵カントリー倶楽部」は、手入れの行き届いたコースとカントリーサイドならではの開放感で来場者を魅了し続けています。お客様にご満足いただけるよう、きめ細やかなサービスとともに鮮やかなグリーンの維持や設備の快適性にこだわっています。「ホテル作州武蔵」ではゆったりとした客室74室と天然温泉大浴場、レストランでは旬の食材を使った季節ごとの料理がお楽しみいただけます。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



天然温泉の露天風呂



彩り溢れる懐石料理

最新情報は
こちらから

公式サイト



公式Instagram
(@sakushumusashi.cc)



極美味ビーフカレーをご賞味ください

ハリマ食品の主力商品である「極美味ビーフカレー」は、コク深くスパイシーな「レギュラー」と、辛さを控えたフルーティーな甘さの「マイルド」を、食べ応えのある230g(1人前)で展開しています。

こだわり抜いた深い味わいを、ぜひご賞味ください。お買い求めの際は、ハリマ食品のオンラインショップをご利用ください。



www.harimafoods.com



ハリマ化成グループ株式会社

www.harima.co.jp

